

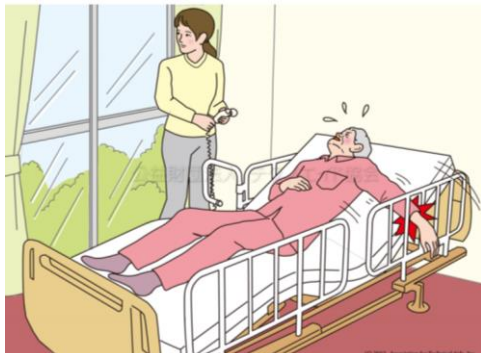
らくだ ニュース

2021年10月号

特殊寝台の事故は操作ボタンミス、移乗時の転落や挟まれ事故などがあります。確認をきちんとおこなっていれば回避できる事故があります。



CASE:25 ベッドの背上げをしていた際に、腕をベッドの柵に挟み、ケガをしそうになる。

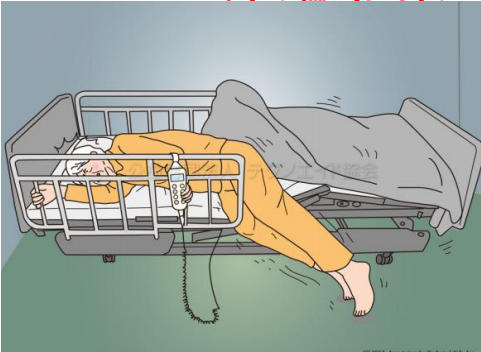


解説：多くの事故が報告されている事例です。ベッドの柵（サイドレール）に限らず、ベッド用グリップでも起こります。介助者が操作する場合は、腕や足の位置を確認することが重要です。また、利用者の腕が麻痺を起こしている場合には、さらに注意が必要です。頻繁にサイドレールの中に手が入り込むような場合には、サイドレールカバーをつけるなどの対策を講じるべきでしょう。

参考要因：

- 人：よそ見をしながらベッドの操作をしていた
- 人：サイドレールの隙間に腕が入っていてもさほど危険に感じていなかった
- モノ：サイドレールカバーなどで腕が出ないような対処をしていなかった

CASE:32 ベッドの柵（サイドレール）にかけた手元スイッチに誤って触れてしまい、ケガをしそうになる。



解説：寝返りや起き上がりにサイドレールを頼る人は多くいます。ベッドの操作を介助者が行っている場合、利用者には手元スイッチに触れてしまうことに対する危険性の認識が低いことも考えられますので、介助者は普段から利用者の動作を観察し、手元スイッチが利用者の手などに触れてしまうような場所に格納しないよう配慮すべきです。

参考要因：

- 人：手元スイッチだと気づかずに握ってしまった
- 人：まさか、手元スイッチを握ってしまうなんて想像していなかった

CASE:193 幼児が潜り込んでいたり、ゴミ箱があることに気づかず、挟み込みそうになる



解説：重介助状態の要介護者の場合、ベッドを介護者に合わせて高め設定にすることがある。その際にベッド下に空間ができるために、子供が入り込んだり、荷物を置いてしまったりすることがある。もともとベッド下をおむつ等の収納場所として誤って使っているケースもあり、ベッドを下すときには挟み込むものがないか慎重に行う必要がある。

参考要因：

- 人：幼児やゴミ箱がベッドの下にいることを想定していなかった
- 人：幼児がいるにもかかわらず目を離した
- モノ：安全装置がついていないベッドだった
- 環境：部屋が狭くて、ゴミ箱や介護用品を置く場所のゆとりがなかった

本ニュースはテクノエイド協会のヒヤリハット集から抜粋しています。HPには福祉用具を使ったヒヤリハットが多く紹介されています。ぜひご覧ください。



◎お問い合わせ・ご用命は
介護ショップらくだ
東京都大田区大森東3-9-18
TEL：03-5762-8568
FAX：03-5762-8569

